

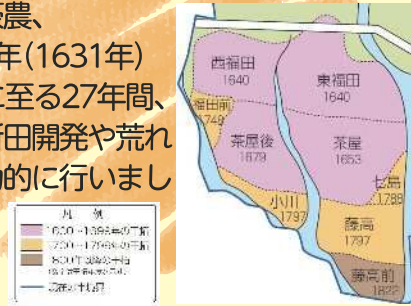
# 南陽地域は こうして誕生したんです

## 南陽地域のあらし

南陽地域は、今から350年ほど前までは、木曾川、庄内川の二大河川にはさまれた河口にあり、一面見渡す限りの海原でありました。しかし、長い歳月の間に両河川によって運ばれた土砂の堆積により浅瀬となっていたものを、江戸時代の182年のうちに次々と干拓を行い、現在の南陽地区が誕生したのです。今でも、干拓当時の堤防が残されています。

## 新田開発に取り組んだ豪農

マップ内のコラムにも登場する干拓事業の第一歩を踏み出した愛知郡八田村の豪農、鬼頭勘兵衛景義は寛永8年(1631年)から明暦3年(1657年)に至る27年間、幾多の困難にもめげず新田開発や荒れた土地の開墾事業を精力的に行いました。



『生物多様性2050 なごや戦略』より

# 南陽の田んぼアートはこうやってできる！

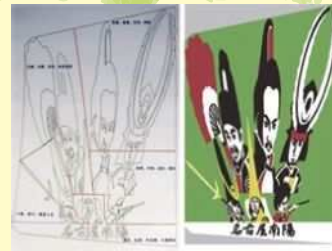
What's 田んぼアート？

田んぼアートとは、葉の色の異なる古代米等を使って、広大な田んぼに絵を描く取り組みのことです。取り組んでいるのは名古屋市内でここ南陽地域だけ。そんな田んぼアートの制作過程をご紹介します！

## ① デザイン作成

まずはデザイン作成から。観察台から遠いところは大きく、近いところは小さく描きます。これは、高さ約7mの観察台から眺めたときにアートがきれいに見えるように遠近法を利用しています。この遠近法は平成27年(2015年)から本格的に取り入れているんですよ！

遠近法を考慮して作成されるデザイン図面



マップを水平にしてみました↑

## ② 測量 (5月上旬)

そして、田んぼアートの制作過程で、最も大変な作業が測量です！測量機を用いて、正確な位置に竹串を打ち、より忠実にアートが表現できるように下準備をします。

正確な測量を行うことが美しい田んぼアートの礎となっています。



## ③ 田植え (5月上旬)

いよいよ田植えです。南陽地域では、まずアートの細かい部分を農家のみなさんが植え、それ以外の部分を一般の参加者が植えます。

一般参加者はなんと約300名！雨でもカッパを着て田植えをします。



## ④ 観察会 (7月上旬)

田植えから2か月ほどで、見ごろの時期を迎えます。南陽地域では見ごろの時期に「観察会」といって田んぼアートのお披露目会を行います。地元の野菜販売やお楽しみイベントなどみんなで盛り上がります！

観察台にのぼって写真を撮るときはいいです。

完成



## ⑤ 稲刈り (10月中旬)

実りの秋、田んぼアートも黄色や茶色に変わり、参加者による稲刈りが行われます。後日、脱穀をして稲からモミをはずします。

稲を束ねるのが結構大変！



## ⑥ 収穫祭 (12月)

田んぼアートの最後のイベント収穫祭。田植えからの参加者や地元のみなさんで大盛り上がり！

## 港区 みどころ マップ

58か所のスポット情報とコラムを掲載しています！



港区役所情報コーナー(1階)、南陽支所などで配布。

南陽のいいところ～つけた

# 南陽 さんぽ

南陽地域の  
おさんぽマップ♪



## 南陽地域データ (南陽支所管内)

人口：30,327人

面積：14,387 km<sup>2</sup>

(令和5年10月1日現在)

Facebookにて南陽地域の魅力を発信中！



ハマシギが群れている様子



干潮時刻の1時間前に行くようにするのがおすすめ！



ダイシャクシギ

提供：NPO法人藤前干潟を守る会

提供：NPO法人藤前干潟を守る会

参考文献：南陽のあゆみ

製作：南陽さんぽ実行委員会 発行：港区南陽支所

平成31年3月初版 4,000部発行

# 1 農業文化園 戸田川緑地

戸田川緑地は、港区と中川区を流れる戸田川の両岸に南北2.5kmにわたり広がる名古屋市内最大規模の公園です。農業文化園は戸田川緑地の敷地内にあり、農業の大切さと花を愛する心をはぐくむ市民憩いの施設として親しまれています。

# 2 おくわ 御鞆神社

西福田新田は寛永20年(1643年)に当時の愛知郡八田村の豪農、鬼頭景義によって開拓されましたがその後、低湿地のため不作が続きました。そのため福田川を開削し、戸田川を改修するなどの難工事に取り組み、その工事の安全と豊作を祈願して御鞆様を祀ったものです。

# 3 いちご畑

大きいビニールハウスが目印の、名古屋市内で唯一いちご狩りが楽しめる観光農園です。平成22年(2010年)にオープンし、毎年12月中旬～5月中旬までがシーズンとなっています。※シーズン中のいちご狩りは完全予約制(詳しくはホームページなどでご確認ください)

# 4 戸田川緑道

戸田川沿いに整備されたおよそ1kmの遊歩道で、地元の方の散歩コースとして親しまれています。ソメイヨシノ、カワツヅクラやサルスベリなど、時期によってさまざまな美しい景色が楽しめます♪【休憩スポットあります】

# 5 南陽神社

大正12年(1923年)より、日清戦争以来の戦死・病死者が祀られています。靖国神社より分霊を勧請し、当時は南陽忠魂社と称しました。昭和30年(1955年)に現社名に変更され、境内には、伊勢湾台風殉難者の慰霊の碑があります。また、神社敷地内には、名古屋市長官舎「鬼頭勤兵衛宅長屋門」が移築されています。

# 6 七反野地蔵堂

鬼頭景義が福田新田を開拓したとき、この地が庄内川と戸田川の中間にあたり、工事犠牲者の冥福と堤防が切れないようにとの願いから、干拓完成の寛永17年(1640年)に、ここに地蔵堂を建立したといわれています。

# 7 七反野神明社

鬼頭景義により、福田新田の堤防が締め切られた直後に建てられたといわれています。祭神は国常立命。昭和19年(1944年)、空襲により全焼し、戦後に再建されました。



## 南陽さんぽマップ

S:スタート G:ゴール

### ウォーキングコース

- [戸田川緑道をめぐるコース] [お寺や神社を中心にめぐるコース]
  - 5.7km (約85分)
  - 4.7km (約70分)
- [藤前干潟と田んぼアートをめぐるコース] [戸田川緑地溝喫コース]
  - 5km (約75分)
  - 3.3km (約50分)

①~⑪ 散策ポイント
お寺
神社
公園
学校
公共施設
史跡寺社等
商業施設等

IIIIII スタートポイント
 IIIIII ゴールポイント

※ただし、ウォーキングコースについて、状況により(工事中等)歩けない場合もあります。

### 11 ぶしまえのがた 藤前干潟 活動センター

南陽地域最南端に位置し、南に向かって広大に広がる藤前干潟と、そこでえさをとる野鳥たちの姿を見ることが出来ます。館内では、干潟に生息するカニや魚などを見ることが出来るほか、干潟に入るとの体験学習や調査を行う際の拠点施設にもなります。

# 1 農業文化園 戸田川緑地拡大図



# 8 田んぼアート会場

田んぼアートとは、葉の色の異なる古代米などを使って、広大な田んぼに絵を描く取り組みです。南陽地域は、平成23年(2011年)から名古屋市内で唯一田んぼアートの制作を行っている地域です。

# 9 アグリパーク南陽

平成14年(2002年)に創設され、名古屋市内で最大となる2ヘクタールの温室でトマトの栽培をしています。トマトの生産量は年間400~450トンです。広大な温室は訪れてみるとその大きさに圧倒されます。また、直売所も併設。採れたての新鮮なトマトや地場野菜を販売しています(11月~7月)

# 10 七里の渡灯台跡

庄内川、新川と日光川が合流して伊勢湾にそそぐこの地は、その昔、熱田から桑名へ向かう海上七里の渡船の航路にあたっていました。航行の安全を図るため灯台が立てられ、渡船夜泊の標識として毎夜点じられました。